

## 第 64 回 フォーラム21 例会 報告

■ 日時 : 平成 26 年 6 月 16 日 (月) 18 : 00 ~

■ 会場 : (株)トーエネック城西荘 会議室

■ スケジュール

① 演題 : 「老兵のつぶやき : 技術徒然草」

講師 : 湯浅 達夫 氏 (湯浅技術士事務所)

② 懇親会

■ 内容

省エネルギーコンサルタントとして活動される中で日常感じられている思いを、研究・調査・経験値から積み上げられてきたデータを基にご紹介いただいた。また、老コンサル(湯浅氏)と「ベテラン電設技術者」との対話形式で構成されたパワーポイントと、それに合わされた湯浅氏のゆったりとした語り口調のご説明により、非常に引き込まれる講演となった。

<社会システムとしてのエネルギー消費について>

- ・個人が直接使用する他に、社会システムとして消費してしまうエネルギーが大量にある。現在日本人の生活様式を MJ で評価し、人間の 1 年間の活動・行動において 62,000MJ という数値になる。人間が摂取する熱量(食品)や通信会社の電力消費量、職場のパソコンや照明・空調など 9 項目にわたる試算値の合計である。
- ・これらの社会システムを支えるエネルギーは輸入に頼っており、日本人はもっとエネルギー事情に関心をいさぐべきと考える。

<大きな技術変化を経験>

- ・電球→蛍光灯→Hf 蛍光灯→LED 照明器具効率の向上、ビルマルパッケージの市販、配線用遮断器の普及、トッランナー変圧器等、設備に関して影響の大きな技術開発行われてきた。よくもこれだけ大きな変化があったと思う。

<利便性・快適性の追求でエネルギーの消費形態が大きく変化>

- ・利便性と快適性の追求により新規に発生したエネルギー消費がある。コンビニ、自動販売機、温水洗浄便座、パソコン・サーバー、家庭の待機電力、通信会社(携帯電話)の使用電力等。家庭の待機電力は全国で年間 118 億 kWh にも及ぶ。
- ・24 時間営業やサービス充実で電力消費が増えるコンビニ店も LED 照明や太陽光発電の導入、小まめな運転管理の徹底などにより、先進的に節電に取り組んでいる。

<計測や計量は結果を読み解く技術者の能力が必要>

- ・BEMS 導入によりやみくもにデータ収集、プリントアウトを行うだけではダメ。BEMS は優秀な技術者の関与で初めて役に立つ設備となる。

**BEMS=Building Energy Management Specialist ?**

- ・運転管理担当者がそもそも空調や設備の特性を理解していない場合が多い。

<幅広い知識を保有していると幅広いフィールドで活躍できる>

・理科系や文科系という人間の属性表現が嫌い。どちらも程々に知識と判断能力を持たなければいけないと思う。

<技術者は一生を通じて倫理的でなければならない>

<技術者の人生に終楽章はない>

・技術の見極め、社会との相関等今までの勉強では難しいことが増えている。わからないことをすぐに聞ける友達をこれからも増やそうと思う。技術者個人としても人類の永続を考えなければならない時代。

<感想>

・エネルギー問題や節電、データ収集解析及び次世代の人材育成等、今日の日本が直面している難しい問題点を、日常生活に身近なものや技術者が経験しているわかり易いデータ項目や事例を基に紹介されている。技術的要素と啓蒙活動により省エネルギー活動の普及をされている湯浅氏ならではの切り口であると感じた。徒然草ならず、確たる技術・データをベースに受け取り側視点に立ったプレゼンテーション手法であると思う。

・技術者としての努力を継続しつづけることの重要性を再認識した。

報告者：近藤 祥文（鹿島建設(株)）



講演の様子



講師の湯浅氏